基底細胞癌（きていさいぼうがん）

基底細胞癌について

基底細胞癌は、皮膚の毛包間上皮や毛包を構成するから発生する皮膚がんです。進行は比較的遅く、転移することは稀ですが、局所で浸潤・破壊する性質があり、適切な治療を行わないと周囲の組織に影響を及ぼすことがあります。
日本における 1998 年から 2007 年の癌登録データによると、人口 10 万人あたり 3.34 人が発症しており、男女比ではやや男性に多い傾向があります。平均年齢は 72.6 歳であり、高齢者に多く見られるのが特徴です。特に顔面、なかでも下眼瞼、鼻、上口唇にかけて好発します。また、基底細胞母斑症候群、色素性乾皮症、放射線照射後の状態、免疫不全状態、脂腺母斑などを背景に発生することもあります。

症状について

基底細胞癌の主な原因は紫外線曝露と考えられており、長期間にわたる紫外線への暴露がリスクを高めます。臨床症状は、日本人の場合、9 割以上の症例で黒色から褐色の斑点であり、盛り上がる（丘疹、結節）ことがあります。進行すると潰瘍を形成し、局所の皮膚潰瘍、疼痛、悪臭、出血などを引き起こすことがありますが、転移することは非常に稀です。

診断について

診断は視診およびダーモスコピー検査によって行われ、感度 85%、特異度 97.2%という高い精度で診断が可能です。また、腫瘍の広がりを評価するために超音波検査や MRI 検査を行うこともあります。確定診断には病理組織学的検査が必要であり、多くの場合 HE 染色で診断が可能ですが、必要に応じて免疫染色も併用されます。

治療について

治療の基本は外科的切除であり、腫瘍を完全に取り除くことが目標です。ただし、切除が困難な場合には放射線療法、凍結療法、外用療法（5-FU 軟膏など）、さらには化学療法（ニボルマブなど）が選択されることもあります。

執筆者

- 氏　名：　森 章一郎（もり　しょういちろう）
- 所属医療機関：　名古屋大学医学部附属病院
- 診療科：　皮膚科

- 氏　名：　奥村 真央（おくむら　まお）
- 所属医療機関：　名古屋大学医学部附属病院
- 診療科：　皮膚科